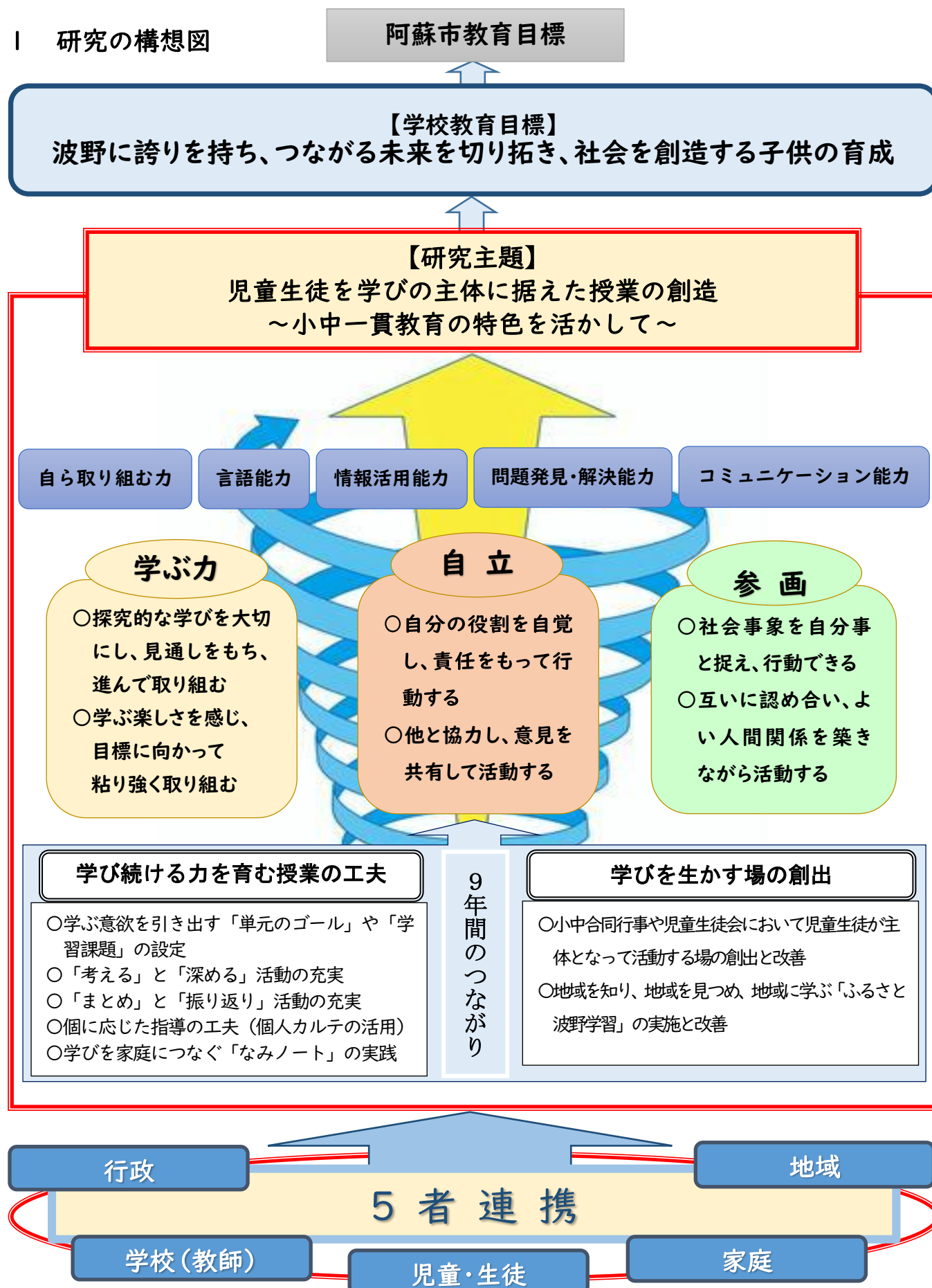


令和6・7年度 阿蘇市教育委員会指定
阿蘇市立波野小学校・波野中学校
『小中一貫教育』『探究的な学び』研究発表会 資料

Ⅰ 研究の構想図



2 小中一貫教育による学びの連続性

(1) 9年間で育む資質・能力

学ぶ力	自立	参画
○探究的な学びを大切に、見通しをもち、進んで取り組む ○学ぶ楽しさを感じ、目標に向かって粘り強く取り組む	○自分の役割を自覚し、責任をもって行動する ○他と協力し、意見を共有して活動する	○社会事象を自分事と捉え行動できる ○互いに認め合い、よい人間関係を築きながら活動する
自ら取り組む力	言語能力	情報活用能力
問題発見・解決能力	コミュニケーション能力	
基盤期 (小1～4)	接続期 (小5～中1)	伸長期 (中2・3)
○学習の基礎・基本が定着し、基本的な生活習慣を身につけた子ども	○主体的に学習に取り組み、学校生活をよりよくするために自分の能力を発揮する子ども	○個性と能力のさらなる伸長を図り、主体的な進路選択ができる子ども

(2) 9年間で繋ぐ取組

	基盤期				接続期			伸長期	
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学びの連続性	発達段階に応じ、カリキュラムや指導の工夫を共有し学力の向上を目指す								
	学級担任制				教科担任制				
	阿蘇市学びの態度・波野スタンダード(学習過程)								
	家庭学習の充実（なみノート・家庭学習の手引き）								
	SUT Jr		SUT（ステップアップタイム）						
	英会話活動		外国語活動			外国語			
協働	異学年交流を通し、人間関係形成を目指す								
	小中合同行事								
	係活動		児童会・生徒会活動						
体験・参画	よりよい学級・学校・地域づくりを目指す								
	地域体験活動								
	生活科		ふるさと波野学習（総合的な学習の時間）						
	伝統芸能の継承（神楽・太鼓）								

3 研究の実際

(1) 研究の視点

【視点①】『各教科を中心に、探究的な学びを追求し、児童生徒が学びの主体となる授業の工夫を行う』(波野スタンダード)【写真1】

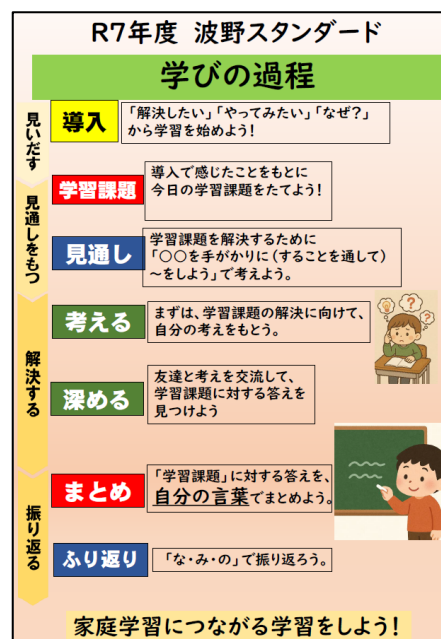
ア 学ぶ意欲を引き出す「単元ゴール」や「学習課題」の設定
イ 「考える」と「深める」活動の充実
ウ 「まとめ」と「振り返り」活動【写真2】の充実

【視点②】『なみノートを活用して学校の授業を家庭学習につなげる取組を行い、個人カルテを活用して個に応じた指導(授業への取り組み方、家庭学習の工夫)を行う』

ア 個に応じた指導の工夫(個人カルテ)
イ 学びを家庭につなぐ「なみノート」の実践

【視点③】『特別活動と総合的な学習の時間、生活科を軸に据え、学びを生かす場を創り出す取組を行う』

ア 小中合同行事や児童会・生徒会において児童・生徒が主体となって活動する場の創出と改善
イ 地域を知り、地域を見つめ、地域に学ぶ「ふるさと波野学習」の実施と改善



【写真1】「なみのスタンダード(小学校版)」

振り返り 「な・み・の」に沿って、今日の授業を振り返ろう！
な…今日の学習内容は理解できましたか？(学習内容・成果)
み…見通しをもって、自分なりに学習を進められましたか？(学習方法)
の…学びをのばすためにどんな学習をしますか？(今後への活かし方)

【写真2】「振り返りシート(振り返りの視点)」

(2) 研究の実際

◆学ぶ力 授業実践Ⅰ 視点① ア 学ぶ意欲を引き出す「単元ゴール」や「学習課題」の設定

【小学校国語科「時計の時間と心の時間」(第6学年)】児童と一緒に設定する学習課題

本時の目標:筆者の挙げた事例の効果をも自分の経験等に重ねて考え、事例の良さを感じることができる。

見 い だ す ・ 見 通 し を も つ	導入	前時の振り返りを確認し、本時の学習課題を立てる。 前時の終了時に、次の授業で解決したいことを考えさせ、本時に繋げるようにする。
	学習課題	どの事例がもっとも効果的な意見だろう? 学習課題を解決するために必要な手立てを考えさせ、どのように学習を進めるのか決めるようにする。 国語科の見方・考え方
	見通し	4つの事例の関係を考えたり、比べたりすることを通して、効果について考えよう。
考 え る ・ 深 め る	考える	4つの事例について自分の経験と比べて考えたことやその事例の効果について考える。
	深める	意見交流をし、なぜ筆者が複数の事例を挙げたのか話し合う。
ま と め る	まとめ	板書のキーワードをもとに自分の言葉でまとめを書く。
	振り返り	「な・み・の」の視点で振り返りを書く。

【成果と課題】

- 前時の振り返りで出た疑問や感想をもとにして、本時の学習課題を立てていった。児童の思いから出発しているので、意欲的に学習を始めることができた。
- 授業前に学習リーダーと本時の授業の流れを確認した。学習リーダーは授業の流れを意識し、リーダーシップを発揮して授業を進めることができた。
- △様々な意見が出た時に、それをまとめとして一つの意見に集約することはまだ難しい。学習リーダーの経験や話し合いの経験を積み重ねながら、まとめる力をつけていく必要がある。

【児童・生徒の主体性を育む学習リーダーの活用】

- 教師と生徒が共に学びを作ることを目指し、自ら学ぶ姿、主体性を育み、児童生徒主体でできることを増やしている。【図1】

ア 学ぶ意欲を引き出す「単元ゴール」や「学習課題」の設定

導入 意欲的に学習に取り組む導入の工夫
…学習リーダーを中心に前時の振り返りを確認する。
分からなかった所や疑問から学習課題を設定する。

前の時間を思い出して、考えたことを発表してください。

○たくさん事例があって面白かった。
○どの事例もよくわかるなと思いました。
○事例が多くて読むのが大変だった。
○1つ目の事例はよくわかりました。

※学習課題を絞り込むのが難しいときには、教師から視点を与え、学習課題を決定する。
『みんなは、それぞれの事例の良さを感じているようですが、どれが一番いい事例だと思いますか?』

学習課題 導入で感じたことから学習課題を設定
…振り返りから感じた課題や教師の発問をもとに学習課題を設定する。

今日は最も効果的な事例はどれかを考えます。そこで、見通しは「4つの事例の関係を考えたり、比べたりすることを通して、効果について考えよう」です。

※授業が始まる前に学習リーダーと学習課題づくりについて打ち合わせをしておく。学習のキーワードなどについて確認し、学習課題の設定や見通しを持つときにキーワードを使って決めるようにしている。

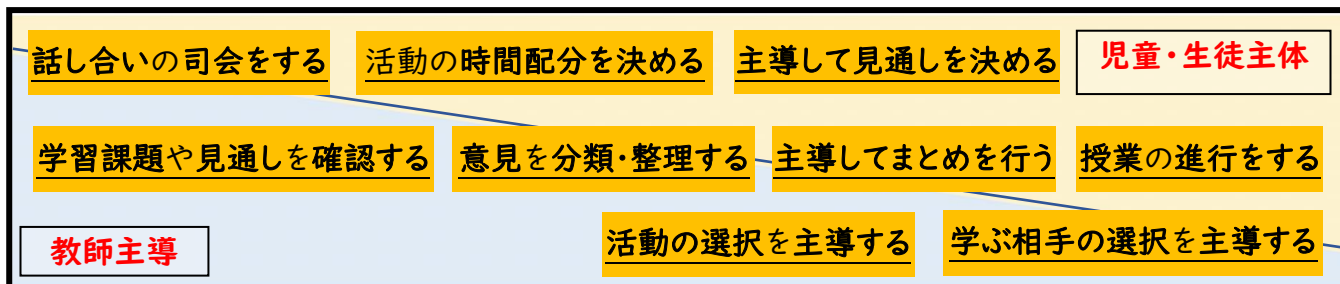
見通し 教科等の見方・考え方をもとに課題解決の見通しを考える
…学習課題を解決するために何に注目したらいいのかなど課題解決に向かう手立てを考え、見通しを設定する。

見通しを立てます。何に注目して考えようでしょうか。

○書かれている言葉に注目するといひ。
○ほかの人の考えに注目して、自分と比べる。
○それぞれの事例の内容に注目する。

それぞれの事例を比べて、効果的だと思う事例とその理由を考えましょう。

○1の事例はほかの事例と比べてイメージしやすいな。
○4の事例は専門的で説得力があるね。



【図1】 児童・生徒の主体性を育む学習リーダーの実践内容

◆学ぶ力 授業実践Ⅱ 視点① イ「考える」と「深める」活動の充実

【中学校理科「身のまわりの物質とその性質」(第1学年)】 自己選択・自己決定の場の設定

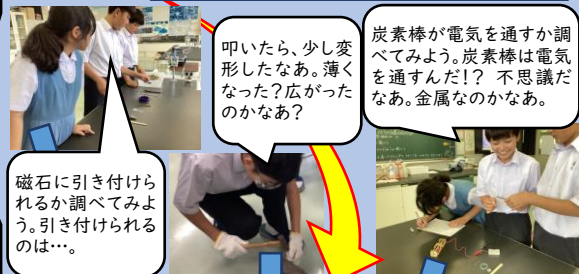
本時の目標：金属と非金属に関する実験を行い、その性質の違いを見いだすことができる。

見いだす・見通しをもつ	導入	前時の振り返りを確認し、本時の学習課題を立てる。
	学習課題	金属と非金属の違いは何だろうか？ 理科の見方・考え方
	見通し	電気を通すか、磁石に付くか、叩いて変化するかに着目しよう。
考える・深める	考える	それぞれに何をどのように調べるのか自己選択し、実験を行い、その結果から分かることを実験レポート考察の「自分の考え」に書く。 個別最適な学び
	深める	考察したこと(自分の考え)を発表する。他者の発表を聴くことで、自分の考えを深化させる。(共通点と相違点に着目し練り上げる。) 協働的な学び
まとめる	まとめ	板書のキーワードをもとに自分の言葉でまとめを書く。 金属には共通した性質(電気をよく通す、叩くと伸びる[展性]など)がある。
	振り返り	「な・み・の」の視点で振り返りを書く。

イ「考える」と「深める」活動の充実

考える

学習課題に向けて、自力解決にあたる。
(個別最適な学び)



深める

教科等の見方・考え方を働かせながら、比較したり、関連付けたり、一般化したりして、級友と考えを共有しながら、学習課題に対する答えを見いだす。(協働的な学び)【学習リーダー】



深化

【成果と課題】

○教科書の実験内容に加えて、幅広く素材を取り扱ったり、性質を調べる操作を加えたりすることで、多面的な見方・考え方に結び付けることができた。実験や観察に対する生徒の主体的な態度にもつなげることができた。自分の生活や、他教科につながる活動を取り入れることで学びを深めることができた。

△実験の結果をもとに、より探究的な学習意欲が広がったが、時間や安全面から学習を広げられなかった。追加実験を動画で生徒に見せるなど、子供の興味・関心に沿った学習の工夫が必要である。

◆学ぶ力 授業実践Ⅲ 視点① ウ「まとめ」と「振り返り」の充実

【中学校音楽科「言葉の抑揚を生かして、創作表現をしよう」(第2学年)】 振り返りシートの活用と家庭学習へのつながり

本時の目標：俳句(短歌)に、課題や条件に沿った旋律をつけることができる。

見いだす・見通しをもつ	導入	前時の振り返りを確認し、本時の学習課題を立てる。 前回のつづき(パート1) 自分の句(俳句・短歌)の「おわ イメージ」やすい・最後の音が決まる? いると旋律がつきにくい? パート1では、歌詞もリズムも最後の音も決まっていたけど、今回は…。
	学習課題	課題や条件に合わせて、違和感のない旋律にするにはどうすればいいのだろうか? 音楽科の見方・考え方
	見通し	言葉のリズムや抑揚、音階の特徴の生かし方(つながり方・終わり方)に着目しよう。 個別最適な学び
考える・深める	考える	パート1(指定された課題や条件の創作)の学習を生かして、自作の俳句(短歌)に合う旋律を考える。※使用する音階を示したカードをミニキーボードにセットする。
	深める	お互いの旋律を聴き合い、自由に意見交換し、必要に応じて再考する。完成したものを五線に書く。それぞれの作品の工夫点を発表し、旋律を演奏する。 協働的な学び
まとめる	まとめ	板書のキーワードをもとに自分の言葉でまとめを書く。 順次進行で音をつなげる。 終わった感じのする音を終止音に選ぶ。
	振り返り	「な・み・の」の視点で振り返りを書く。

ウ「まとめ」と「振り返り」の充実

まとめ

「学習課題」に対する答えを、自分の言葉でまとめる。【学習リーダー】



まとめ
その音階を生かす者を使う、ふいふき合わせる
順次進行を使う
主音(まいふき)で終わるほうがいい

振り返り

「な・み・の」の視点で、学習の振り返りを行う。
…生徒の疑問を課題として次時の学習につなげている。

「な・み・の」の視点
な…今日の学習内容は理解できましたか?(学習内容・成果)
み…見通しをもって、自分なりに学習を進められましたか?(学習方法)
の…学びをのばすためにどんな学習をしますか?(今後への活かし方)

【成果と課題】

○「音楽の見方・考え方」に着目した学習を通して、個別の気づきを自分の言葉でまとめることができた。前時の振り返りをもとに家庭学習や次時の学習課題につなげることで、学習意欲の向上が見られた。

△学習内容の定着を図るために、「な・み・の」の視点に沿った振り返りを継続して取り組んでいくことが必要である。

◆学ぶ力「個人カルテ」の実践 [視点②ア]

これまでの課題として、児童・生徒一人ひとりの学習量や学習内容にばらつきがあること、学力の個人差が大きいことが挙げられた。

そこで、教師と児童・生徒が学力や学習状況を共有する「個人カルテ」をもとに、発達段階に応じた面談を実施し、児童・生徒自身が学びの姿勢や学習内容を客観的に捉えたり、学習意欲や家庭学習の充実につなげたりできるよう取り組んだ。

単元テストや学習の足跡の写真を貼って、成長や課題を振り返る。間違えた問題などは、なみノートで書き直しを行う。電子データで個人カルテを作成することで、写真等の添付が容易になる。また、児童・生徒と教師間での共有がよりスムーズに行うことができる。【写真3】

各教科の単元終了時に「できたこと・わかったこと」や「できなかったこと・課題と思うこと」の学習状況について振り返りを行う。基盤期(小1～4)、接続期(小5～中1)、伸長期(中2～3)の発達段階に応じて、教科数を変更している。【写真4】

単元の全体の理解度を◎(よく理解できた)、○(理解できた)、△(やや理解できた)、×(理解できなかった)の4つの項目で振り返りを行う。【写真4】

個人カルテをもとに面談を行い、教師と児童・生徒の双方で、成長と課題を共有し、教師が児童・生徒に対して、各単元での成長を認め、褒め、励まし、助言を行う。

面談で話したことをもとに、日頃の授業や学力充実タイム、家庭学習「なみノート」で取り組むことを決める。【写真5】

写真3は、基盤期(小2)の個人カルテのサンプルです。上部には「できたこと」や「できなかったこと」の欄があり、学習内容や課題が記入されています。下部には「なみノート」の写真を貼った欄があります。

【写真3】 資料 個人カルテ(基盤期 小2)

写真4は、接続期(小6)の個人カルテのサンプルです。上部には「できたこと・わかったこと」や「できなかったこと・課題と思うこと」の欄があり、学習状況が記入されています。下部には「家庭学習の計画(なみノート)」の欄があり、月曜日から日曜日までの学習計画が記入されています。

【写真4】 資料 個人カルテ(接続期 小6)

写真5は、伸長期(中3)の個人カルテのサンプルです。上部には「できたこと・わかったこと」や「できなかったこと・課題と思うこと」の欄があり、学習状況が記入されています。下部には「家庭学習の計画(なみノート)」の欄があり、月曜日から日曜日までの学習計画が記入されています。また、下部には「生徒のコメント」や「保護者のコメント」の欄があります。

【写真5】 資料 個人カルテ(伸長期 中3)

◆学ぶ力 なみノート「授業と連動した家庭学習の取組」〔視点②イ〕

【なみノートの取組】

小学校ではノートに何をどのように書けばいいのかわからず、困っている児童が多かった。そこで、内容の例を一覧にした「メニュー表」を作成し、児童に提示した。また、ノートの使い方や自学の仕方を示した「家庭学習の手引き」を紹介し、なみノート作りから家庭学習の習慣化をねらっている。【写真6】

中学校では帰りの会で「なみノートカード（学習計画表）」を使って家庭学習の計画を立てている。「取り組む内容」「学習を始める時刻・時間」を決めて、翌朝に学習の実際を振り返っている。



【写真6】 小学校「メニュー表」

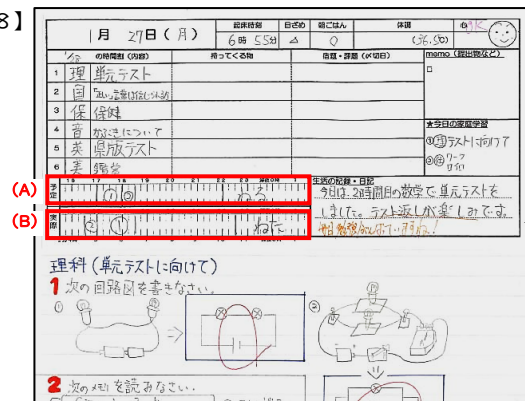
【なみノート紹介タイム】

小中学生がそろそろ給食の時間に、効果的に活用している例を紹介している。【写真7】

小学生はその日の授業の復習を多く紹介し、家庭学習の大切さを意識させている。中学生は自ら立てた計画が実践できたものなどを紹介し、小学生は中学生を見て学び、中学生は効果的な家庭学習に対する捉え方が広がっている。【写真8】



【写真7】 なみノート紹介タイム



【写真8】 ノート例（中学校）

◆自立 SUT（ステップアップタイム）の活動〔視点③ア〕

波野小・中学校では、学びに向かう態度や、学び合いの能力を育成するために、SUT（ステップアップタイム）の時間を設定している。速音読や視写で学びに向かう態度、交流学习（縦割り班の活動）で学び合いの能力を育成している。

【速音読】 「主体的に学びに向かい、学習課題を適切にとらえる力」を育てるために、速音読に取り組んでいる。毎回、初見の文章を1分間読み、内容を読み取る活動を行っている。

【視写】 学びに向かう力の資質・能力を身につけるための活動の1つとして、3分間の視写に取り組んでいる。基礎的・基本的な学習の定着を目指し、小学校で書く活動を取り入れている。【写真9】

【交流学习】 児童・生徒が主体となり、話し合いや交流活動を行っている。体育的活動では、モルック競技についてルールを話し合い、全員が楽しめるルールを考えることができた。小学6年生は、英語で楽しめるゲームについて考え、自己紹介やカルタゲームに取り組んだ。【写真10】



【写真9】 「視写」をしている場面



【写真10】 「交流学习」の場面

◆自立（児童会・生徒会活動、合同行事）〔視点③ア〕

【児童会・生徒会活動】

児童会・生徒会が連携して活動できるように、委員会を小中で統一している。年度始めに合同児生委員会を開催し、「児童会・生徒会カリキュラム」を作成した。カリキュラムには、委員会ごとに「いつ」「何をするか」を明記した。これにより9年間のつながりが明確になり、見通しを持って活動できるようになった。

各委員会が小中合同で様々な取組を実施している。保健給食委員会では、心の絆を深める月間（6月実施）で、互いのことを知り合うために「あじさいプロジェクト」に取り組んだ。【写真11】

【小中合同行事】

児童・生徒の自治力を高めるために、児童会・生徒会が中心となって、各行事を実施している。

歓迎遠足では運営委員会（執行部）、運動会では体育安全委員会、人権集会では人権環境委員会、学習発表会では文化放送委員会が中心となり、テーマ決めや役割分担、当日の運営を行った。

各行事の運営を見童・生徒が中心となって行うことで、目標を持って、主体的に行動する姿が多く見られた。【写真12】



【写真11】 あじさいプロジェクト



【写真12】 保小中合同運動会

◆参画（ふるさと波野学習、地域体験活動）〔視点③イ〕

【ふるさと波野学習】

各教科での学びを生かした、探究的な学びとして「ふるさと波野学習」に取り組んでいる。

小学校では、波野に自生しているスズランや希少植物について学習する「すずらん学習」に取り組んでいる。【写真13】 関係団体や地域の方々も参加して、ふるさとについて学びを深めている。

中学校では、ふるさと学習で学んだことをもとに「福祉体験」や「職場体験」につなげている。【写真14】 また、「先輩に学ぼうフェス」では波野出身の方から話を聞き、ふるさとの在り方について将来を見据えながら、考える機会を設定している。

そして、「ふるさと波野学習」で学んだことをまとめ、阿蘇市のプレゼンコンテストで発信している。【写真15】

【地域体験活動】

4つの旧小学校校区ごとに児童・生徒・保護者・学校・地域が協働して、小・中合同で体験活動を行っている。昨年度は各地区とも「そうめん流し」を行った。竹の樋や箸、そば猪口を作ったり、そば打ちをしたりと工夫を凝らした取組となり参加者からも高評価をいただいた。今年度は、地域貢献活動の視点も加え、清掃・除草活動を行ったり、地域の防災を考えた防災食づくりに取り組んだりした。体験後は地域の方々との活動（グラウンドゴルフ、モルック等）を行い、交流を深めることができた。【写真16】 各教科での学びを生かし、学びを深めていくことで、地域を知り、地域を大切にし、地域のために行動しようとする児童・生徒が育ってきている。



【写真13】 ふるさと波野学習



【写真14】 職場体験



【写真15】 プレゼンコンテストで最優秀賞を受賞



【写真16】 地域体験活動（除草活動）

4 成果と課題

(1) 成果

【視点①について】

波野スタンダードの共通実践により「導入」「深める」「振り返り」などの各時間の確保が図られ、それぞれの活動を児童・生徒も意識して取り組んできた。児童・生徒アンケート【資料1】の結果から、教科の学習への意欲と理解について向上していることが分かる。さらに、【資料2】(ア)が昨年度から0.6ポイント増加した。これは授業者が教科の「見方・考え方」を基に、児童・生徒に自己選択・自己決定の場を作り個別最適な学びを行い、協働的に学びを深める授業づくりに取り組んだ結果だと考える。また、【資料3】の結果①、②より「対話・話し合い」の項目が高い値を維持している。協働的な学びの中で子供たちは、学習意欲を高め理解を深めている。

【視点②について】

【資料2】(イ)から、児童・生徒が自らの学びを自覚して、成果や課題を見出すことができたことが分かる。また、【資料3】の結果③、④より「学習習慣」の項目で家庭での学習時間の増加や学習に計画性をもつようになったことが分かる。家庭学習をするにあたって、「何をすればいいか分からない」という児童・生徒の意見もあったが、面談を通して個人カルテの作成をしたり、なみノートのメニュー表や家庭学習の手引きを作成したりすることで、目標をもって学習する児童・生徒が増えた。

【視点③について】

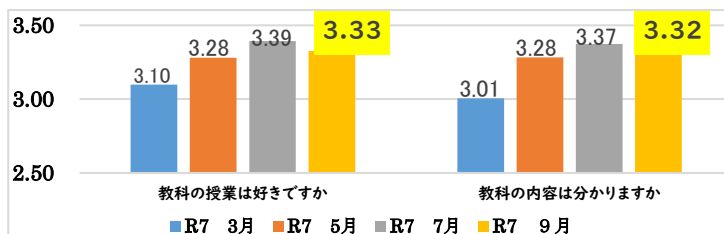
【資料2】(ウ)、【資料3】の結果⑤、⑥より様々な取組や経験により自信をつけ、主体的に学校生活をよりよくしようとしていることがわかる。各教科での学びをはじめ、様々な場での活躍、地域での活躍が児童・生徒の自信につながっていると考える。また、R6年度開催の『第3回 ICT を活用した小中学生プレゼンコンテスト in SDGs』では、波野小・中共に最優秀賞に選ばれた。それにより、子ども達は自信を高め、今年度のプレゼンコンテストに向けて、よりよい社会を目指し、意欲的に学習へ取り組んでいる。各教科の学びと総合的な学習の時間、生活科を関連付けながら、探究的な学びを追求した結果、力がついての受賞であった。

(2) 課題と今後の志向

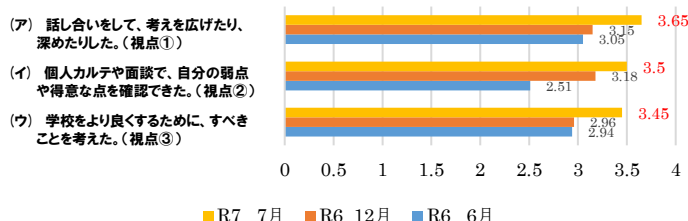
i-check より、「発信力」の項目に課題が見られた。

プレゼンコンテストの結果のような成果が見られたり、授業中の話し合いが活発に行われたりしている一方で、友達と違う意見に対して自分の考えを自信をもって伝えられなかったり、友達と同じ意見のときに思考が止まり、考えを深められなかったりしている姿が見られる。主体的・対話的で深い学びに向けて、児童・生徒が「各教科の見方・考え方」を働かせた授業となるよう実践を継続していくとともに、その土台となる安心感をもって学習ができる支持的風土づくりに努めていく必要がある。

今年の成果と課題を起点として、小中一貫教育における教育活動を中心に取り組みを継続していき、子供たちの主体性を育てていきたい。



【資料1】授業改善に向けた児童・生徒アンケートの比較 (R7.3月～9月)



【資料2】研究の視点①②③に沿った児童・生徒アンケートの比較 (R6～R7)

【資料3】R6～R7実施 i-check 結果 5年 6年 中1 中3 (9月は本校独自で調査を行っている。)

